

器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

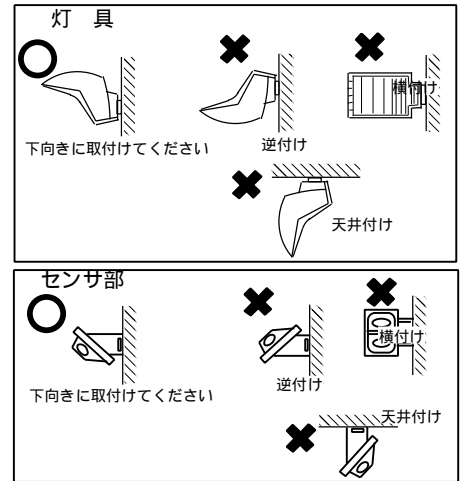
施工説明

工事店様へ、この説明書は保守の為お客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

警告

施工は、取付説明書にしたがって確実に施工する。
 施工に不備があると落下・感電・発火の原因となります。
 器具を改造しない。落下・感電・発火の原因となります。
 振動や衝撃の多い場所（橋や高架上等）、浴室などの湿気の多い場所、腐食性ガスの発生する場所、沿岸隣接地域では使用しない。
 落下・感電・発火の原因となります。
 器具（灯具・センサ部）の逆付け、横付け、天井付けは行わない。
 落下・感電・発火の原因となります。
 口出し線との接続は、スリーブ等により確実に施工し、自己融着テープを巻いてから、絶縁テープを巻いて仕上げ、十分に絶縁・防水処理を施工する。
 接続に不備があると感電の原因となります。
 接地工事（D種設置工事）を確実に施工する。
 接続に不備があると感電の原因となります。【電気設備技術基準】
 器具表示及び取付説明書にしたがって、指定されたランプを使用する。
 指定以外のランプを使用すると、ランプの破損・火災の原因となります。



注意

この器具は一般屋外用（防雨型）器具です。それ以外の場所では使用できません。感電・発火・落下の原因となります。
 灯具は、風速 60m/s 仕様です（ポール取付時）。それ以外の場所では使用できません。感電・発火・落下の原因となります。
 表示された電源電圧（定格電圧 ± 6%）以外の電源で使用しないでください。
 感電・発火の原因となります。
 施工時の一時的な点灯確認以外は日中点灯はしないでください。不点や発火の原因となります。
 蛍光灯は周囲の温度により明るさが変化します。周囲温度 0 ~ 35 以外で使用した場合、極端に暗くなったり、点灯直後にちらつきの発生の原因となります。

施工前のご注意

センサの検知性能をより確実にするため器具の取付位置は、取扱説明の【センサの検知範囲】をよくご覧のうえ設定してください。センサの最適取付高さは 4.1m です。

センサを 4.1m より高い位置に取り付けた場合、検知感度が鈍くなる場合があります。

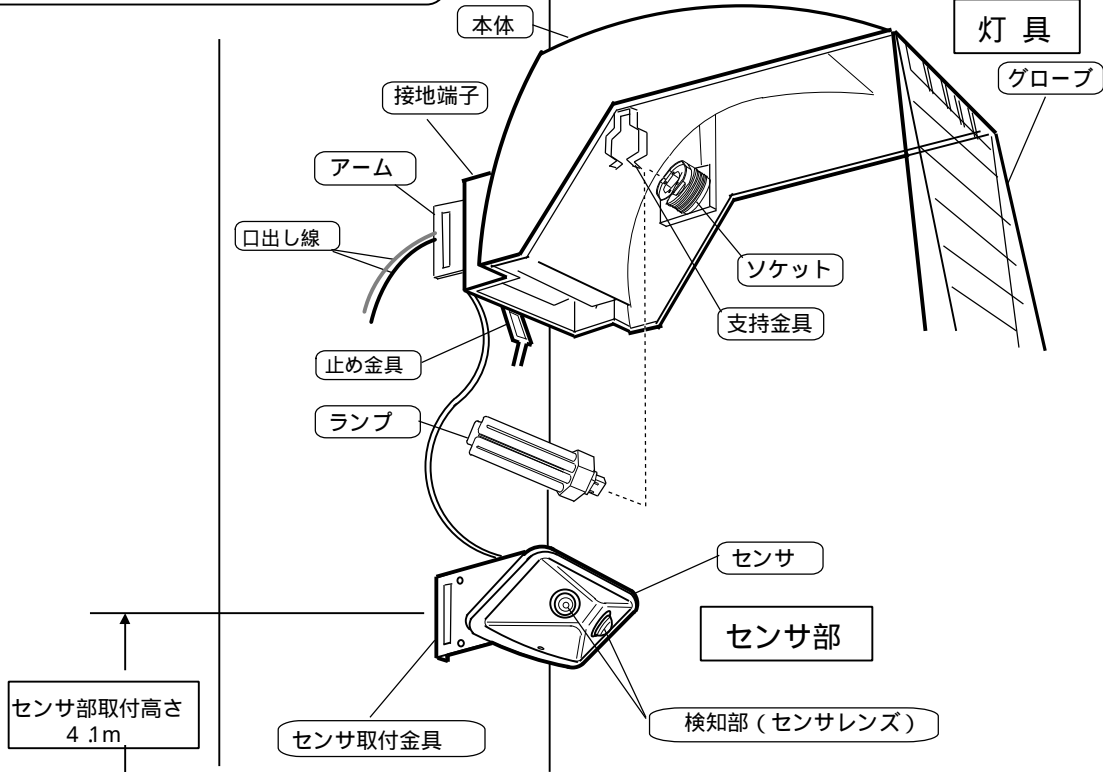
また、4.1m より低い位置に取り付けた場合、検知範囲が狭くなる場合があります。

次のような場所には取付けないでください。

このセンサは、温度変化を検知しますので、誤動作の原因となります。

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1、大理石など反射の強い床面のある所 | 4、検知の範囲内に交通量の多い道路がある場所 |
| 2、風などでよく揺れる植物などがそばにある所 | 5、前面に障害物のある場所（透明なガラスでも遮断されます） |
| 3、エアコン（室外機）の吹き出し口、換気扇の近く | 6、振動の激しいポールなど不安定な所 |

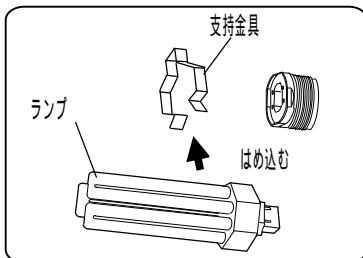
各部のなまえと取付けかた



- 器具（灯具・センサ部）をオプション部品を使用して取付場所に取付ける。
 - ・【センサの検知範囲】を参照し取付場所を設定してください。
 - ・センサ部の最適取付高さは4.1mです。
 - ・最初に灯具を取付け、そのあとセンサ部を取付けてください。
 注）取付け方は【鋼管ポール取付の場合】・【壁面取付の場合】を参照してください。
 灯具～センサ部の取付距離を指定寸法でおこなわないとグローブの開閉ができなくなります。
- 口出し線に電源線・アース線を結線する
 - ・接地端子を使用してD種（第3種）接地工事を行ってください。
 - ・接地が不完全な場合、感電の原因となります。
 - ・口出し線との接続は、スリーブ等により確実にを行い、自己融着テープを巻いてから、絶縁テープを巻いて仕上げ、十分に絶縁・防水処理をしてください。（内線規程（JEAC8001-2000）1335-7～9に準ずる）
 不備がありますと感電の原因となります。

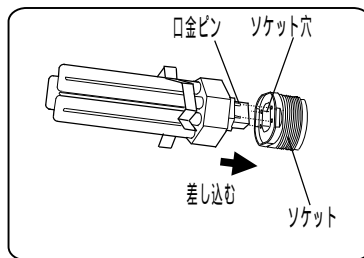
ランプの交換方法とグローブの外しかた

- グローブを開ける
 - ・止め金具をたおしてグローブを開けてください。
- ランプ交換をおこなう

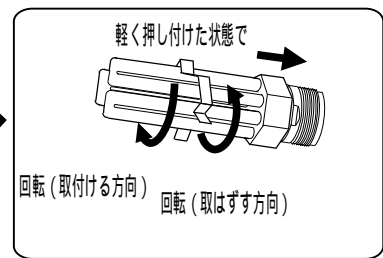


支持金具にランプをはめ込む。

取りはずす場合には、軽く押し付けながら取付と逆方向に回転させてください。



ランプの口金ピンをソケット穴に合わせ、奥まで確実に差し込む。



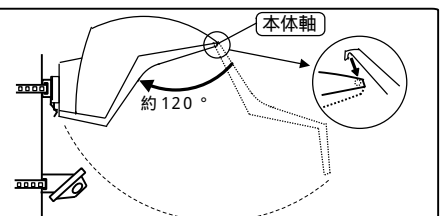
軽く押し付けた状態でランプを少し回転させ取付ける。（回転角度約15°）

- グローブを本体に押し込む
 - ・グローブが止め金具に確実に掛かっていることを確認してください。
 不備がありませんと浸水・落下・感電の原因となります。

グローブがはずれた場合の取付方

- ・グローブは一定方向のみで取付けられる構造になっています。
- ・右図のようにグローブを約120°開放した位置で本体に取付けてください。
- ・取付ける際、本体の軸がグローブ取付部に確実に入っている事を確認してください。

取付けが不十分な場合グローブ破損の原因となります。



CJ-1型（鋼管ボール取付）の場合（鋼管ボール取付バンドを使用【2本】）

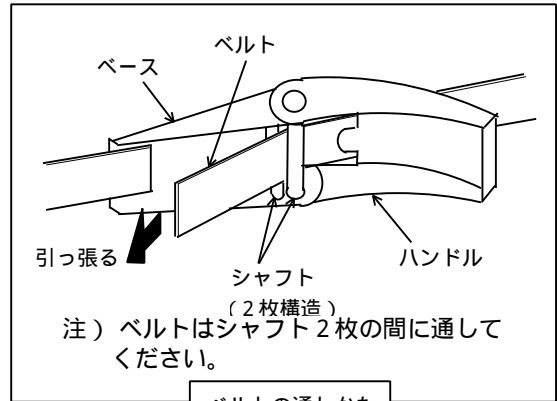
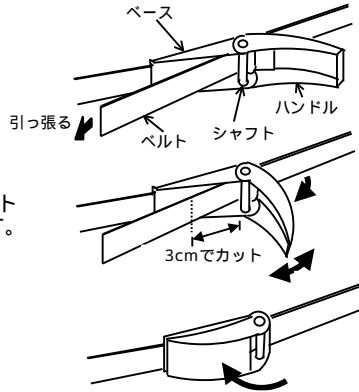
ベルトの先端をシャフトの間（シャフトは2枚構造）に通してたるまない程度にはります。

ハンドルを90° 起こして仮止めします。

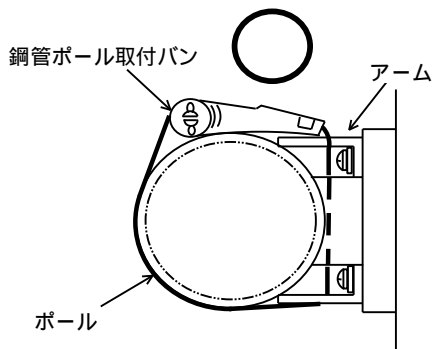
ベルトのあまった部分をシャフトから3cmのところまで切断します。

ハンドルを往復作動させ（ラチェット機構）ベルトを緩むことなく十分に締めます。

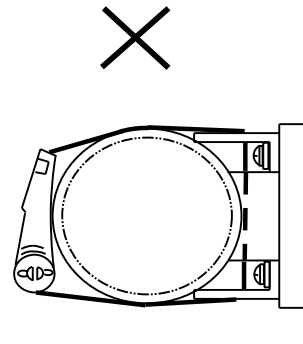
ハンドルをベースに重なるまで倒してストッパーはめめます。



ベルトの通しかた

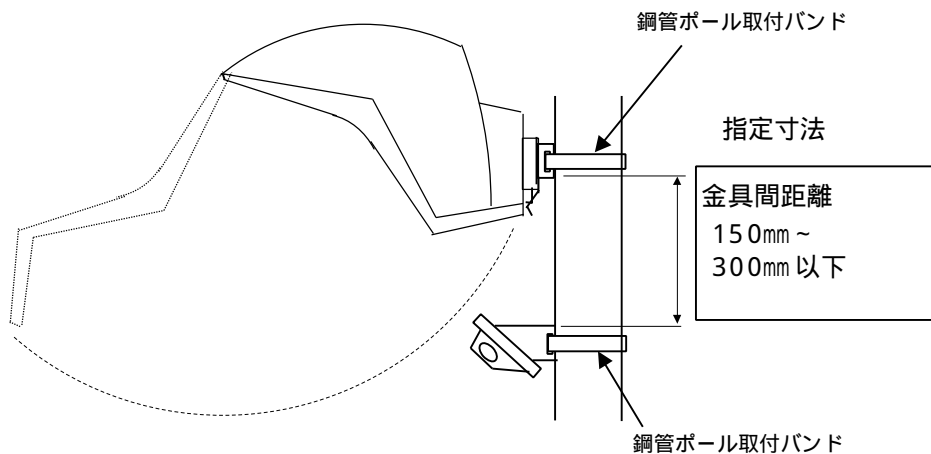


鋼管ボール取付バンドは上図の位置になるように取付けてください。



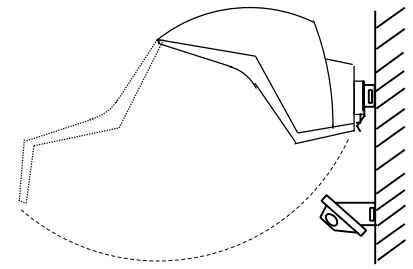
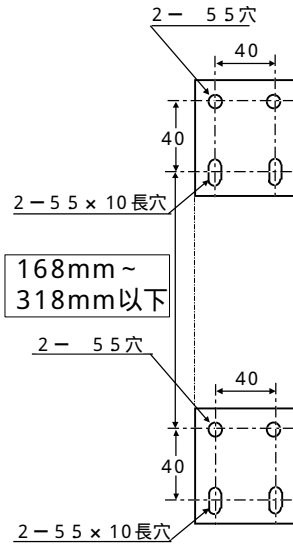
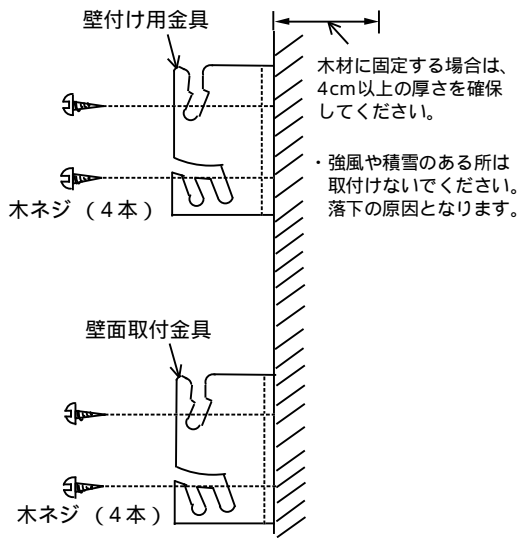
鋼管ボール取付バンドは上図の位置で取付けないでください。鋼管ボール取付バンドのベースが変形し、締め付けが出来なくなります。

60等小径の鋼管ボール取付の場合



CJ-2 型（壁面取付）の場合（壁付け用金具を使用【2個】）

壁付け用金具を壁面に、木ねじ（各4本現場手配）で確実に取付けてください。



・左図の寸法で取付けてください。
取付に不備がありますとグローブが
開閉できなくなります

- ・ 木板への取付けは一時的なものとして、常設はさけてください。
- ・ 強風や積雪のある所は取付けしないでください。落下の原因となります。

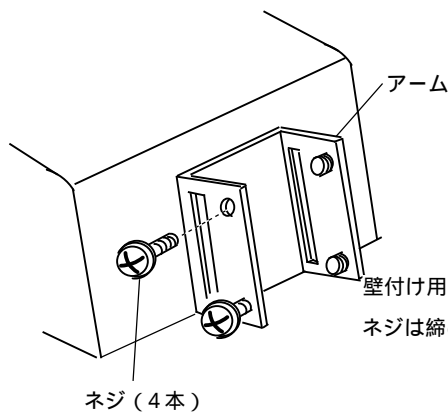
取付寸法図

壁面が木材以外の場合は、十分な取付強度を確保できる適切なネジを選択して取付けてください。

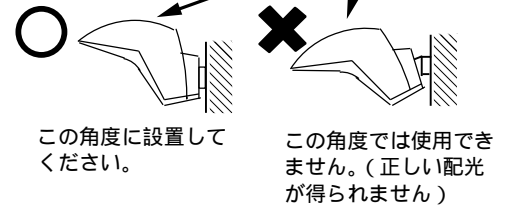
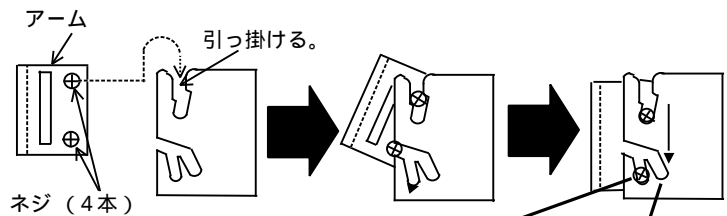
壁付け用金具への器具（灯具・センサ部）の取付けかた

灯具

壁付け用金具に付いているネジ（4本）を灯具のアームにセットしてください。



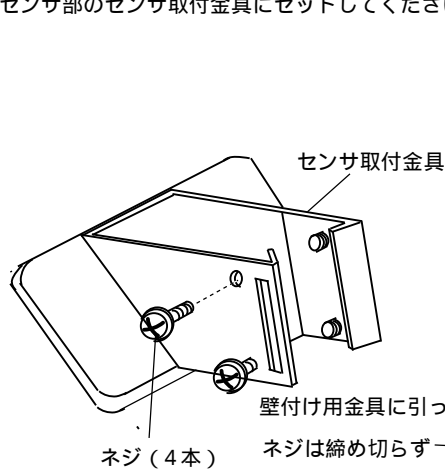
壁付け用金具に引っ掛けて取付けてください。



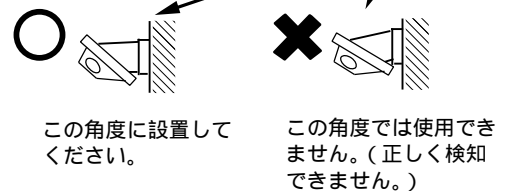
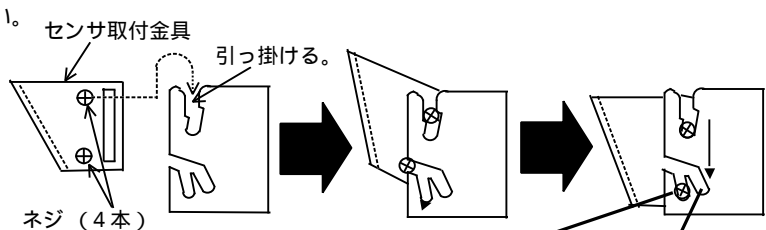
注）壁付け用金具にセット後はネジを確実に締め込んでください。

センサ部

壁付け用金具に付いているネジ（4本）をセンサ部のセンサ取付金具にセットしてください。

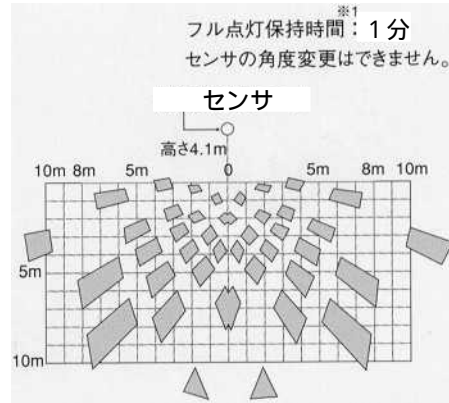
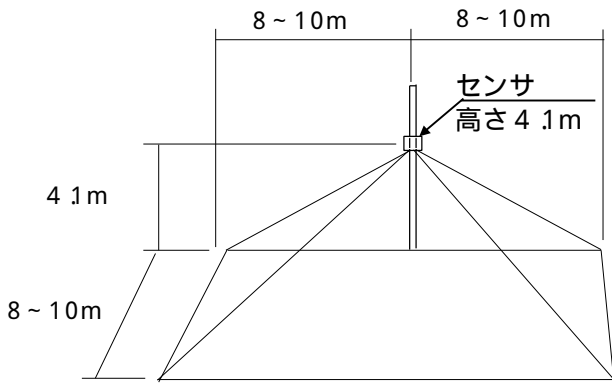


壁付け用金具に引っ掛けて取付けてください。



注）壁付け用金具にセット後はネジを確実に締め込んでください。

センサの検知範囲



※1
フル点灯保持時間：1分
センサの角度変更はできません。

センサ

高さ4.1m

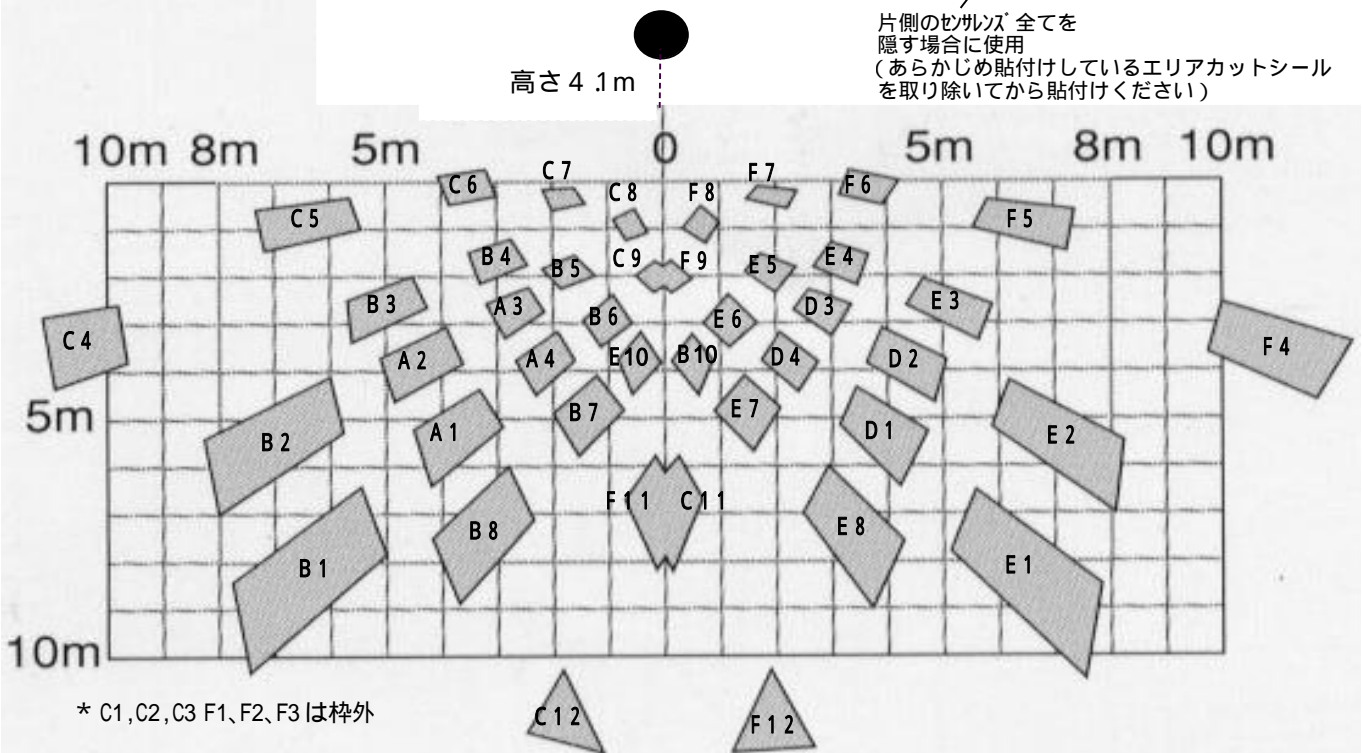
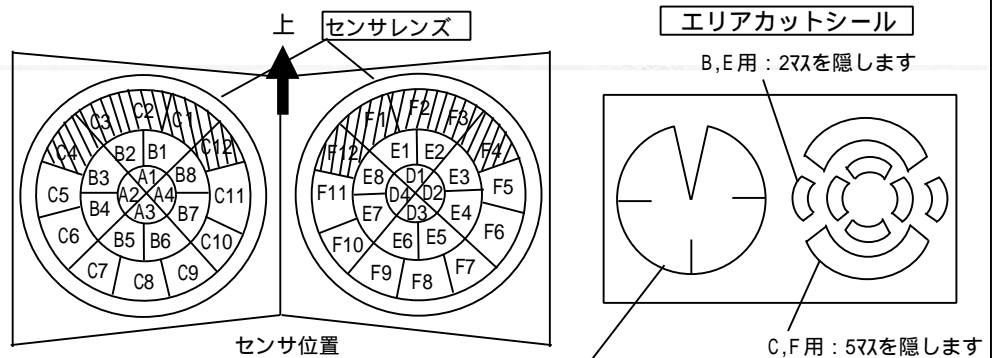
1フル点灯保持時間とは
センサが検知なくなってからフル点灯を保持する時間のことです。また本商品にはフル点灯保持時間の調整機能は付いておりません。

- 注) 検知範囲は気温、服装、人の移動速度、進行方向、人の温度、器具の取付高さにより多少変化します。
- 注) 電源をONした直後の60秒間はランプがフル点灯します。
- 注) フル点灯中、検知範囲に人が入ると、点灯保持時間は延長されます。
- 注) この器具は電源ONして60秒経過後、人がセンサの検知範囲内に入ると、自動的に調光点灯からフル点灯に変わります。

センサレンズにエリアカットシールを貼付けることで検知範囲を限定できます

右図のアルファベット上にエリアカットシールを貼付けると、下図のアルファベットに対応した検知範囲をカットできます。(斜線部は、検知範囲外も検知する為、あらかじめエリアカットシールを貼付けています。)

注) 実際のセンサレンズにはアルファベットは記載されていないので、注意して貼付けてください(うすいマス目はありません。)



* 貼付け後、必ず検知範囲の動作確認を行ってください。

安全に関するご注意

ご使用前に、この取扱説明を必ずお読みのうえ正しくお使いください。

**警告**

器具を改造しない。感電・発火の原因となります。
 万一、煙が出たり、変な臭いがするなど異常状態のまま使用しない。発火・感電の原因となります。
 構成部品の交換は、しない。
 異常を感じたら速やかに電源を切り、販売店・電気工事店にご相談ください。

**注意**

お手入れの際には、必ず電源を切ってから行ってください。
 感電・やけどの原因となります。
 照明器具には寿命があります。設置場所により環境ストレスはことなります。ご使用期間が10年に満たなくても発錆があればすぐに点検・交換をしてください。また、設置して10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行しています。点検・交換をしてください。
 使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯、年間3000時間点灯です。
 周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。
 3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。
 点検せずに長期間使い続けるとまれに落下・感電・火災などに至る場合があります。

使用上のご注意**【センサの動作について】**

下記のような場合、検知動作することがあります。

- 1 人以外の熱源（車両や犬、猫、鳥などの小動物）が検知エリアを横切る場合
- 2 急激な温度変化（路面温度の変化や気温の変化）がある場合
- 3 気温差のある風が検知エリアを横切る場合
- 4 気象条件（にわか雨、雪、台風、北風、雷、霧など）による温度変化がある場合
- 5 樹木などのゆれるものが検知エリアにある場合
- 6 センサのすぐ側を昆虫が飛んだり、センサ部にとまった場合
- 7 アマチュア無線など強力な電氣的ノイズがある場合
- 8 雷、ヘッドライトなど強力な光が直接センサに当たる場合

下記のような場合、検知動作しないことや感度が鈍くなったように感じる場合があります。

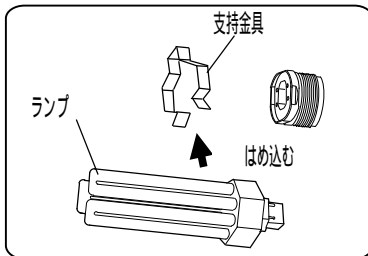
- 1 人と周囲の温度差が低い場合
 （傘をさしている人、合羽、防寒着を着ている人、
 気温の高い夏期など）
- 2 検知エリア内に人がいても動かない場合
- 3 センサに向かって真っすぐ近づく場合
- 4 ほこり・風雨・風雪でセンサのレンズ面が汚れた場合
 （センサのレンズ面の汚れは、柔らかい乾いた布などで、
 傷をつけないように拭き取ってください）
- 5 霧など熱線を透過しにくい気象条件の場合
- 6 検知エリアを遮られた場合（大型車両の駐停車など）
- 7 雷やアマチュア無線など強力な電氣的ノイズでセンサが破壊した場合

故障かなと思ったときは

(現象)	(考えられる原因)	(処置)
検知範囲内に人がいるのにフル点灯しない	検知範囲の設定が適切でない	センサ部取付を調整する
	器具に向かって真っすぐ接近している	本センサは左記の場合検出しにくい場合があります
	検知部(センサレンズ)が汚れていたり、蒸気や雨などの水滴がついている	検知部(センサレンズ)を柔らかい布で傷がつかないようにふきとる
	寒冷地などで顔がマフラーで覆われていたり、手袋をしている	本センサは人の動きによる温度変化分を検出するため左記の場合検出しにくい場合があります
	雨の日に傘で顔や手が隠れている	
検知範囲内で人が静止している	本センサは静止している人は性能上検出できません	
フル点灯したまま減光しない	検知範囲に人がいる	検知範囲外に移動する
検知範囲内に人がいないのにフル点灯する	検知範囲内に誤動作源がある 例)他の照明器具、エアコン(室外機)の吹き出し口、風などでよく揺れるもの(看板、旗、植木等)、車の熱やヘッドライト、無線ノイズ(無線等)、犬や猫などが動いている	誤動作源を取り除く(センサ部取付を調整する)
	検知範囲の外側近くに道路があり、自転車や人の動きを検知している	

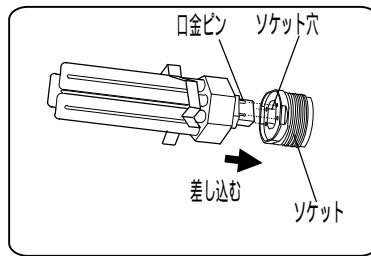
お手入れ・ランプ交換 注意(必ず電源を切ってください。感電の原因になります。)

- 器具の清掃について…………… 汚れを落とす場合は、石けん水をひたしたやわらかい布をよく絞ってふきとり乾いた布で仕上げてください。シンナーやベンジンでふかないでください。変色・変質の原因となります。
- ランプ交換について…………… 本体表示にしたがって、指定されたランプをご使用ください。
- 器具の点検について…………… 器具の性能を維持するために、ランプ点灯の確認(電源の投入)、清掃してください。センサの点検(P6の【使用上のご注意】を参照)を定期的に行ってください。センサ部が汚れてくると、感度が鈍くなります。やわらかい布で

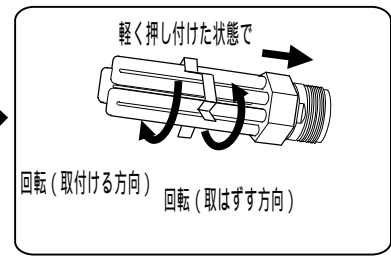


支持金具にランプをはめ込む。

取りはずす場合には、軽く押し付けながら取付と逆方向に回転させてください。



ランプの口金ピンをソケット穴に合わせ、奥まで確実に差し込む。



軽く押し付けた状態でランプを少し回転させ取付ける。(回転角度約15°)

回転が不十分な場合、落下の原因となります。

注) ガラス管を強く握らないでください。

ガラス破損の原因となります。

すべりやすい手袋はご使用にならないでください。

ゴム手袋のご使用をおすすめします。

適合ランプ

DULUX T/E FHT42EX - N (昼白色)

定 格

使用電圧	周波数	消費電力(定格<全点灯>時)
AC100V~242V	50/60Hz共用	41.4W

< 照明器具 > 安全チェックシート

チェック欄が足りない場合は
コピーしてお使いください。

安全点検項目	点検結果 (該当には)					処置手順
	/	/	/	/	/	
1. スイッチを入れても、時々点灯しないときがある。						印があるときは危険な状態になっていますので使用を中止し故障や事故の防止の為お取り替えをおすすめします。
2. プラグ、コードや本体を動かすと点滅する。						
3. プラグやコードなどが異常に熱い。						
4. こげくさい臭いがする。						
5. 点灯させたときに漏電ブレーカが動作することがある。						
6. コード、ソケット、配線器具に傷みやひび割れ、変形がある。						
1. 購入後、10年以上経過している。。						印があるときはお買い上げ店にご相談ください。
2. ランプを鋼管しても点灯するまで時間がかかる。						
3. カバーなどに変色・変形がある。						
4. 塗装面にふくれ、ひび割れがある。または錆が出ている。						
5. 器具取付部に変形・ガタツキ・ゆるみなどがある。						

上記点検項目以外でも不具合があれば、販売店等の専門家にご相談ください。

取説コード
Z395

200902A_1009